

火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報をしましょう。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、声が出なければやかんなどを叩き、隣近所に異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけでなく、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

初期消火のコツ

■油なべ

水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

■ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

■電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火を。

■カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどに火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

■衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

覚えておこう!「119」のかけ方

119番通報では、次のような内容を落ち着いて正確に答えましょう。

- ① 火災が発生していること
- ② 出火場所の住所はどこか。
目印になる建物・施設なども
- ③ 何が燃えていて、火災の規模はどの程度なのか
- ④ けが人や逃げ遅れた人はいるか
- ⑤ 通報者の名前と電話番号



3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 濡らしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- できるだけ姿勢を低く、身をかがめて避難する。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけた上に引き抜く。



ノズルを手を持つ。



火までの距離を確認する。



レバーを強く握って噴射する。

火災予防が一番!! - 住宅用火災警報器の設置義務化 -

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。命を守るために設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室および「寝室に行く階段」の天井への設置が必要です。
- 台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、設置して約**10**年が交換の目安です!

住宅内取付位置図

